

甲賀市スポーツ振興基本計画

平成20年（2008年）3月

甲賀市教育委員会

目 次

I. スポーツ振興基本計画策定に当たって	1
1. スポーツ振興基本計画の策定趣旨	1
2. 振興基本計画策定の基本方針	1
3. 計画の期間	2
II. 甲賀市のスポーツの現状と課題（アンケート結果）	3
1. 甲賀市民のスポーツに関する意識調査の概要	3
(1) 調査目的	3
(2) 調査内容	3
(3) データ収集方法	3
2. 調査対象者の属性	4
3. 甲賀市民の健康に対する意識について	6
4. 甲賀市民のスポーツ実施頻度について	8
5. 運動・スポーツ実施者の活動状況	10
6. 運動・スポーツを定期的に行っていない市民の意識	12
7. 今後の運動・スポーツ活動に対する意識	13
8. 甲賀市のスポーツ施設について	14
9. 総合型地域スポーツクラブについて	16
10. 甲賀市のスポーツイベントについて	19
11. 児童・生徒の体力、運動能力調査結果	20
(1) 平成19年度小中学校新体力テスト集計結果	20
(2) 中学校運動部・文化部活動調査（加入者数および加入率）	21
(3) 新体力テストおよび運動部活動調査結果から	22
III. 甲賀市スポーツ振興基本計画	24
1. 基本方針	24
2. 基本目標	24
甲賀市スポーツ振興基本計画の概念図	25
IV. 各基本目標に基づく施策	27
1. みんなのスポーツ環境の整備充実	27
(1) 総合型地域スポーツクラブの育成・支援	27
(2) スポーツボランティアの育成・確保	28
(3) スポーツによる健康づくりと交流の拡充	29
(4) スポーツ施設の整備・有効活用	30
2. 競技力の総合的な向上	30
(1) 一貫指導体制の構築	30
(2) スポーツ指導者の資質向上	31
(3) 競技者に対する支援体制の充実	32

3. 学校体育・スポーツの充実	32
(1) 学校と地域の連携	32
(2) 学校教育をととした運動・スポーツ活動の充実	33
(3) 学校体育施設の整備・有効活用	34
V. 計画の推進および進行管理	34
1. 計画の推進	34
(1) 市民の理解と協力	34
(2) 市内スポーツ関係団体との連携	34
(3) 学校・家庭・地域の連携	35
(4) 行政内部の連携	35
2. 進行管理	35
(1) 計画の評価および見直し	35

I. スポーツ振興基本計画策定にあたって

1. スポーツ振興基本計画の策定趣旨

現代社会において、生活の利便性に伴う運動不足の慢性化や飽食の日常化に伴う生活習慣病は大きな脅威となっています。また、少子高齢化や核家族化、さらに情報化の進展は、人間関係を希薄化し、個人の孤立を進行させ、精神的なストレスを増大させています。

このような状況の中、スポーツの果たすさまざまな役割は極めて重要であります。スポーツには、自己の能力の限界に挑戦し記録や勝敗を競う競技スポーツ、運動不足やストレスの解消を求める健康スポーツ、生きがいや家族や地域とのふれあいを大切にする生涯スポーツなどがあります。近年、学校週5日制や職場の週休2日制が定着し、主体的に自由時間を活用できる環境が整ってきている中、健康で豊かな生活を志向する動きがあります。また、オリンピックに代表されるように、トップアスリートの競技力は多くの人々に感動を与え、スポーツを観ることや話題にすることが生活に豊かさや潤いを与えています。このようにスポーツは多くの機能を果たし、私たちの生活に欠くことのできない重要な文化の一つといえます。

そうしたことから、スポーツの機会を提供する行政と、利用する市民や競技者が一体となった取組みを積極的に展開し、一層のスポーツ振興を図ることにより、本市の21世紀における明るく豊かで活力あるスポーツ社会の実現のため本振興基本計画を策定します。

2. スポーツ振興基本計画策定の基本方針

本振興基本計画は、平成18年10月に実施した「甲賀市におけるスポーツに関する意識調査」の結果を踏まえ、市民一人ひとりが生涯にわたり、それぞれのライフステージにおいてスポーツを継続的に実践できる環境を整備するとともに、市民の自発的なスポーツ活動を支援するため、国や滋賀県のスポーツ振興計画および甲賀市総合計画やその他関連した計画との整合性を図りながら、計画的・体系的に推進するものです。

また、本計画は、平成12年（2000年）9月に当時の文部省から出された「スポーツ振興基本計画」と、それを受けて滋賀県で平成14年（2002年）3月に策定された「滋賀のスポーツデザイン2010」を基本にしています。国のスポーツ振興基本計画は平成18年（2006年）に文部科学省において見直された後も、「生涯スポーツ社会の実現」が3つの柱の1つに位置づけられています。

甲賀市においても、「生涯スポーツ社会」の実現を目指し、これを市のスポーツ振興基本計画策定の基本方針として位置づけます。

滋賀のスポーツデザイン 2010

施策目標

- スポーツの振興を総合的に図り、県民の豊かなスポーツライフの実現を目指す
- 成人の週1回のスポーツ実施率が2人に1人となることを目指す

3つの充実方策

地域における生涯スポーツの充実
競技力の総合的な向上
学校体育・スポーツの充実

3. 計画の期間

本計画は、平成20年度から10年間で実現すべき方針と目標を設定するとともに、その方針と目標を設定するために必要な施策を示したものです。

Ⅱ. 甲賀市のスポーツの現状と課題

－甲賀市民のスポーツに関するアンケートの結果－

1. 甲賀市民のスポーツに関する意識調査の概要

(1) 調査目的

甲賀市民の健康に対する意識、運動・スポーツ活動の現状と問題点、スポーツ施設やスポーツ行事に対する要望、総合型地域スポーツクラブに対する認識や会員になる条件などを明らかにし、甲賀市のスポーツ振興の推進に役立つ基礎的資料を得るために、この調査を行いました。

(2) 調査内容

質問紙に含められた調査内容は次のとおりです。

- ① 調査対象者の基本的属性に関する項目
- ② 健康、運動に対する意識に関する項目
- ③ 運動・スポーツの実施状況に関する項目
- ④ 甲賀市のスポーツ施設に関する項目
- ⑤ 総合型地域スポーツクラブに関する項目
- ⑥ 甲賀市のスポーツイベントに関する項目
- ⑦ 甲賀市のスポーツの発展についての意見（自由記述式）

(3) データ収集方法

① 調査対象者

甲賀市在住の中学生以上の中から男女 3,000 名を無作為に抽出しました。

② 調査実施期間

平成 18 年 10 月 6 日～10 月 31 日

③ 調査用紙の配布と回収

郵送による配布と返信で、1,305 名からの回答を得ました。

回収率は 43.5%でした。

2. 調査対象者の属性

① 性別

性別	件数	(全体) %
男性	586	44.9
女性	715	54.8
無回答	4	0.3
計	1,305	100.0

② 年齢

年齢グループ	件数	(全体) %
10歳代	100	7.7
20歳代	116	8.9
30歳代	169	13.0
40歳代	224	17.1
50歳代	251	19.2
60歳代	210	16.1
70歳代	165	12.6
80歳以上	65	5.0
無回答者	5	0.4
計	1,305	100.0

③ 居住地区

居住地区	件数	(全体) %
水口	505	38.7
土山	130	10.0
甲賀	204	15.6
甲南	282	21.6
信楽	177	13.6
無回答者	7	0.5
計	1,305	100.0

④ 職業

職 業	件 数	(全体) %
会社員	342	26.2
パート・アルバイト・内職	184	14.1
家事	166	12.7
学生	122	9.4
自営業	114	8.7
公務員	69	5.3
農林漁業	34	2.6
無職	226	17.3
その他	32	2.5
無回答者	16	1.2
計	1,305	100.0

⑤ 自由時間の過ごし方（最も多いものを1つだけ選択）

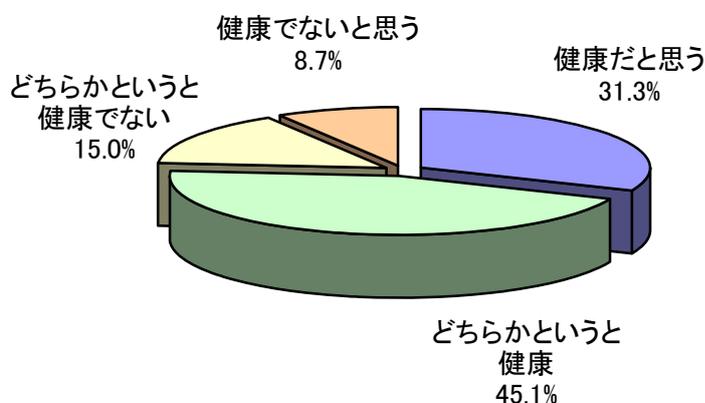
項 目	件 数	(全体) %
家事・家庭の雑事	372	28.5
スポーツ以外の趣味や娯楽を楽しむ	242	18.5
休養・家族団らん	134	10.3
スポーツ活動をする	107	8.2
スポーツをテレビなどで観戦する	99	7.6
友人・近所の人と交際	67	5.1
何もせずごろ寝	64	4.9
仕事・勉強	39	3.0
娯楽施設に出かける	29	2.2
旅行や保養	24	1.8
ボランティア活動	15	1.2
その他	35	2.7
無回答者	78	6.0
計	1,305	100.0

3. 甲賀市民の健康に対する意識について

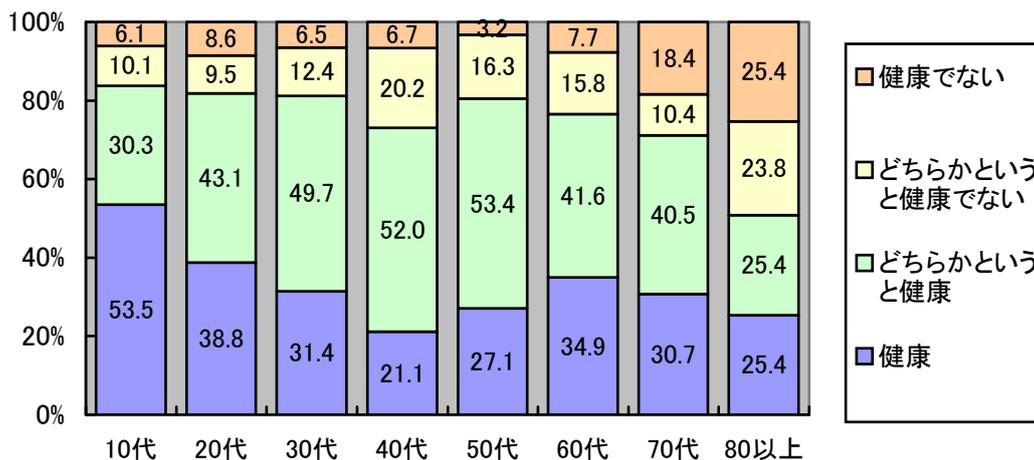
市民の自分自身の健康状態に対する認識では、「どちらかという健康」と答えた人が最も多く、全体の45.1%を占めていました。「健康だと思う」と答えた人（31.3%）と合わせて、76.4%の市民が自身を健康である認識していました。

また、年代別で健康状態に対する認識を見ると、70歳代、80歳以上になると自身を健康であると思っている人の割合が減っていく傾向が見られました。また、40歳代において健康であると思っている人の割合が低くなっており、この時期に健康に対する意識の変化が起きていることが確認されました。

自身の健康状態に対する認識



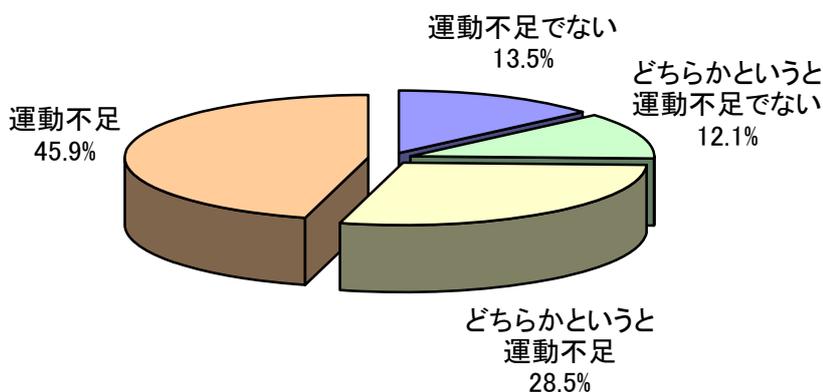
自身の健康状態に対する認識(年代別)



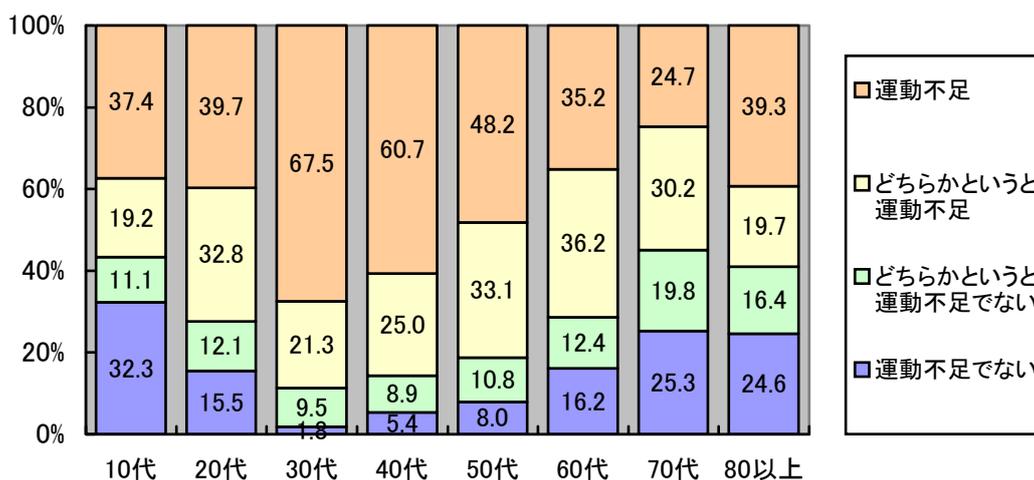
自分自身が運動不足であると思うかどうかについては、「運動不足だと思う」と回答した人が最も多く、全体の45.9%を占めていました。「どちらかというと運動不足だと思う」と答えた人を合わせて、74.4%の市民が自身を運動不足であると認識していることが確認されました。

また、年代別に見ると、60歳代以上の高齢者よりも、30歳代から50歳の年齢層において、運動不足を感じている市民の割合が高くなっていました。仕事、家庭の状況も含めて、このあたりのライフステージが最も運動不足に陥る傾向があることが確認されました。

自身の運動不足に対する意識



自身の運動不足に対する意識(年代別)

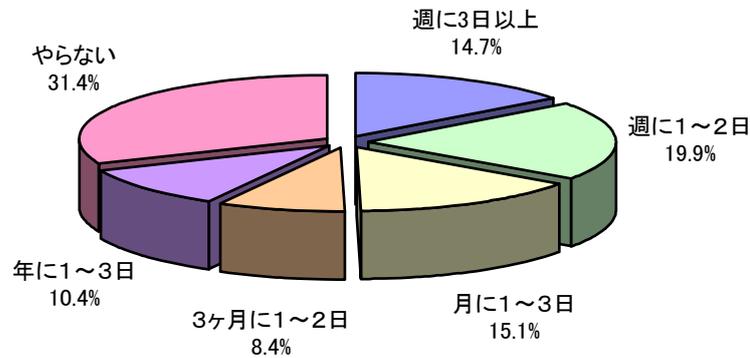


4. 甲賀市民のスポーツ実施頻度について

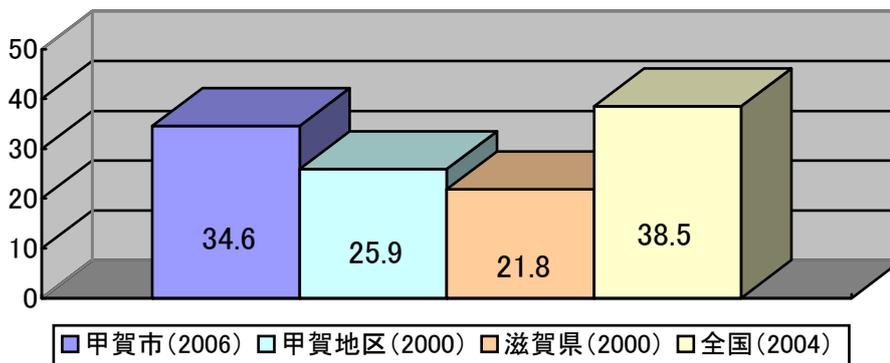
市民のスポーツの実施状況については、「週に3日以上」運動やスポーツを行う人の割合が14.7%、「週に1～2日」行う人が19.9%、合わせて34.7%の人が「週に1日以上」の定期的なスポーツ実施者と見ることができます。この数字は、2000年に実施された滋賀県政世論調査の報告にある当時の滋賀県の平均値(21.8%)、および甲賀地区(25.9%)の平均値よりも高くなっています。ただ、2004年度の全国平均値(38.5%)は下回っています。

比較的实施頻度が低い、不定期な運動・スポーツ実施者は、「月に1～3日」の15.1%、「3ヶ月に1～2日」の10.4%、「年に1～3日」の10.4%を合わせて33.9%になります。一方、まったく運動やスポーツを「やらない」非実施者が31.4%も存在することもわかりました。

市民のスポーツ実施頻度



スポーツ実施頻度の比較

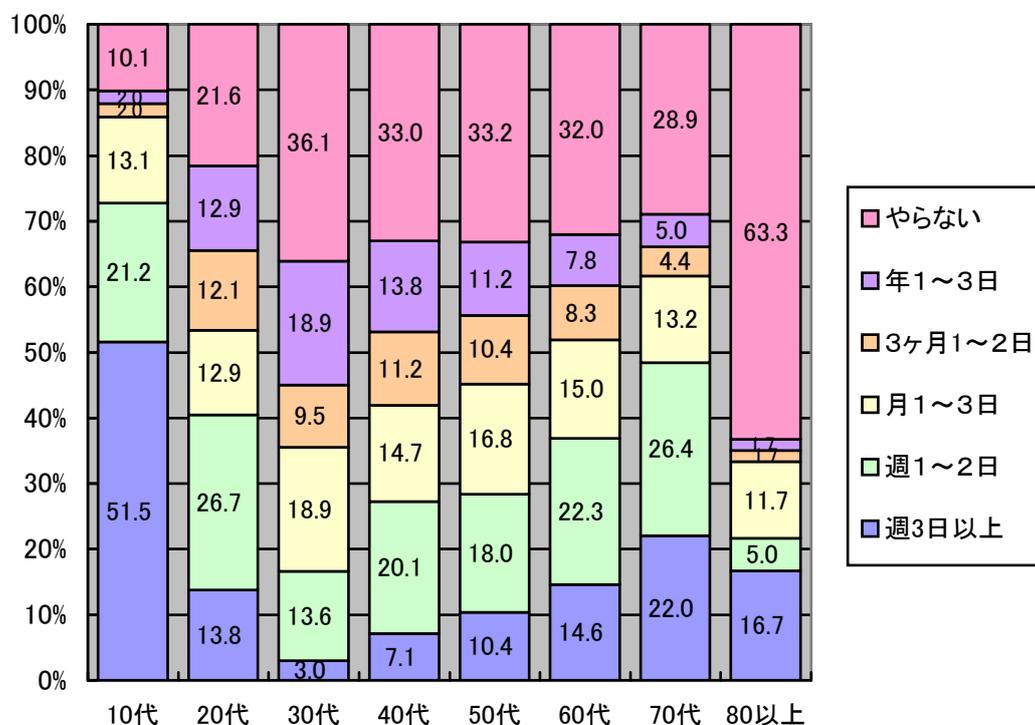


年代別でスポーツ実施頻度を見ると、「週に3日以上」と「週に1～2日」を合わせた定期的スポーツ実施者の割合が最も高いのが10歳代（72.7%）です。次いで、70歳代（48.4%）、20歳代（40.5%）、60歳代（36.9%）、50歳代（28.4%）、40歳代（27.2%）、80歳以上（21.7%）の順になっており、最も低いのが30歳代で、16.6%でした。

運動・スポーツをまったく「やらない」という非実施者層が最も多いのが、80歳代で、63.3%を占めました。次に30歳代が多く、36.1%でした。

全体的に、60歳代、70歳代という高齢者層よりも、30歳代から50歳代の中年層の運動・スポーツの実施率が低い傾向が見られました。現代社会におけるこの年齢層の運動・スポーツ活動不足は明らかで、今後は、このような現状に即したスポーツ振興方策が必要であると考えられます。

市民のスポーツ実施頻度（年代別）

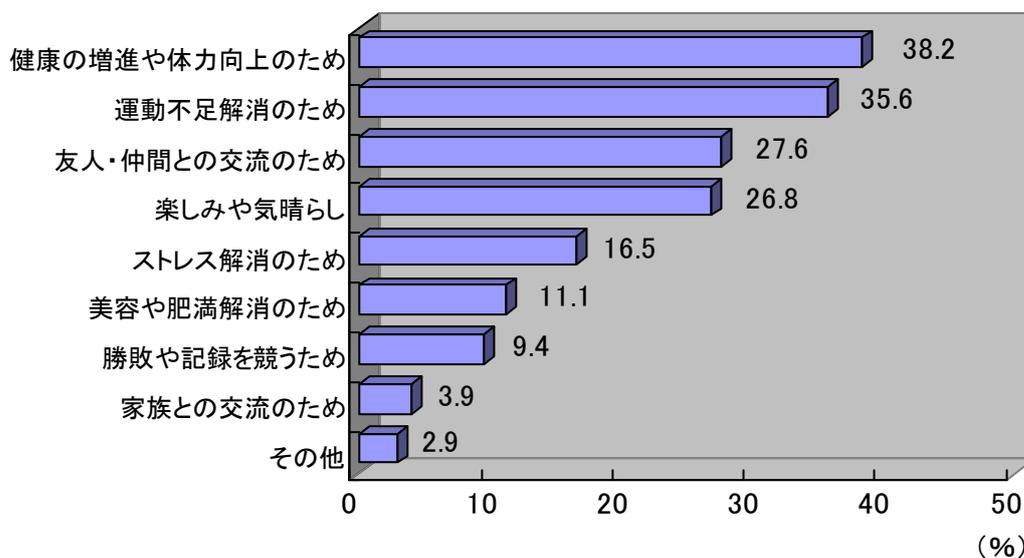


5. 運動・スポーツ実施者の活動状況

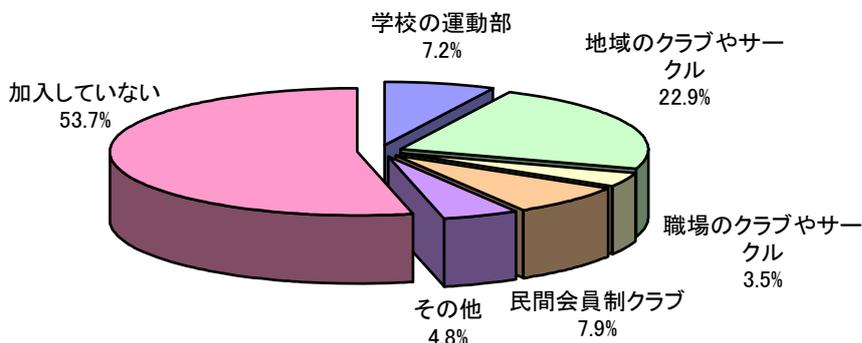
市民の運動・スポーツを行う理由で最も多いのが「健康の増進や体力向上のため（38.2%）」で、次いで、「運動不足解消のため（35.6%）」、「友人・仲間との交流のため（27.6%）」、「楽しみや気晴らし（26.8%）」の順になっています。「勝敗や記録を競うため（9.4%）」という競技的なスポーツ実施目的は比較的低く、今後は、心身の健康や社交を目的とした運動・スポーツ活動のためのスポーツ振興方策が重要になります。

また、スポーツクラブやサークルへの加入状況については、「地域のクラブやサークル」への所属が最も多いが、半数以上が加入していないのが現状です。

運動・スポーツ活動の主な目的

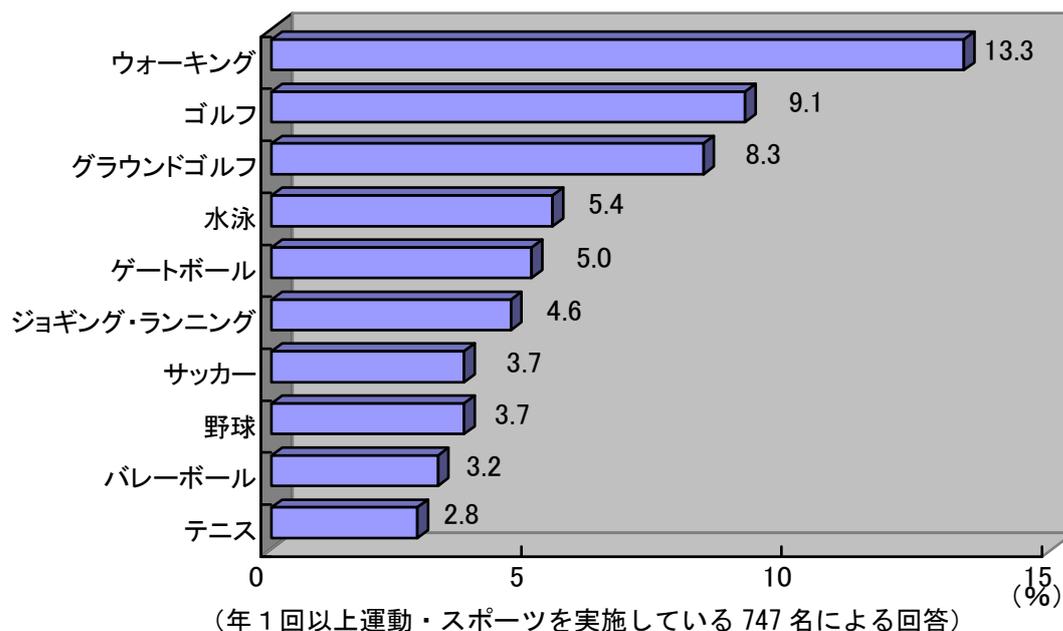


現在加入しているスポーツクラブ(サークル)



年に1回以上スポーツを行っている市民が、過去1年間に最も行ったスポーツ種目は、「ウォーキング」で回答の13.3%を占めました。次いで、「ゴルフ(9.1%)」「グラウンドゴルフ(8.3%)」「水泳(5.4%)」「ゲートボール(5.0%)」「ジョギング・ランニング(4.6%)」の順に実施者数が多くなっていました。

この1年間で最も行ったスポーツ種目

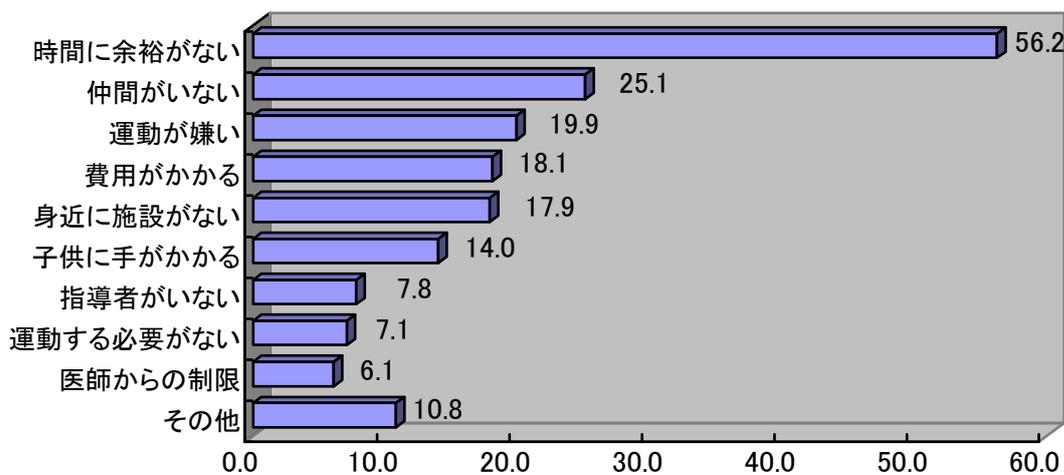


6. 運動・スポーツを定期的に行っていない市民の意識

「月に1回以上」の運動・スポーツ活動を行っていない市民の「行わない(できない)」理由で最も多いのが「時間に余裕がない」で、56.2%がそのように感じています。次いで、「仲間がいない」、「運動が嫌い」、「費用がかかる」、「身近に施設がない」などが運動・スポーツの阻害要因として挙げられました。

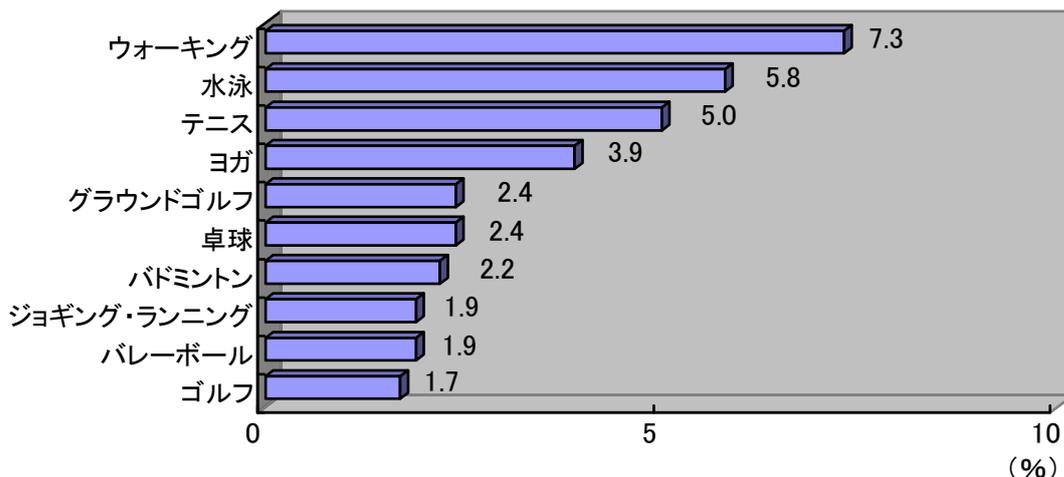
また、今後やってみたいと思うスポーツの上位には、「ウォーキング」、「水泳」、「テニス」、「ヨガ」、「グラウンドゴルフ」、「卓球」などが見られました。

運動・スポーツを定期的に行わない(できない)理由



(月に1日以上スポーツをしていない537名による3つまでの複数回答) (%)

今後やってみようと思うスポーツ種目



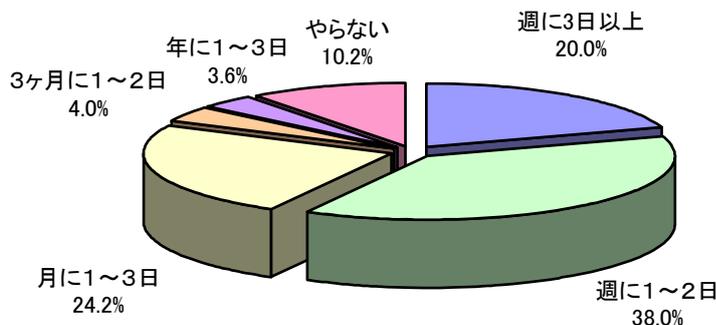
(月に1日以上スポーツをしていない537名による3つまでの複数回答) (%)

7. 今後の運動・スポーツ活動に対する意識

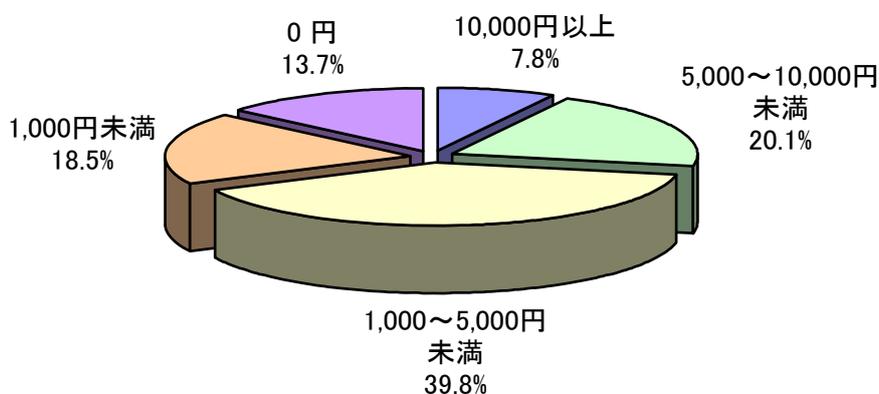
市民の今後の運動・スポーツの実施に対する希望によると、「週に3日以上(20.0%)」行いたい人と「週に1~2日(38.0%)」行いたい人を合わせて、58%の人々が定期的にスポーツを行いたいと考えています。実際に定期的に行っている人が市民の34.7%であるので、市民の約4分の1が「スポーツがやりたいけれどできていない」と見ることができます。さらに、24.2%が「月に1~3日」と答えており、市民のスポーツに対するニーズの高さが確認されました。

運動やスポーツを行うための1カ月あたりの支出については、「10,000円以上(7.8%)」と「5,000~10,000円未満(20.1%)」を合わせて、27.9%が月に5,000円以上を費やすことができると回答しています。さらに、「1,000~5,000円未満(39.8%)」の出費が可能な市民が39.8%もいます。

今後のスポーツ実施に対する希望



運動・スポーツへの月平均の出費

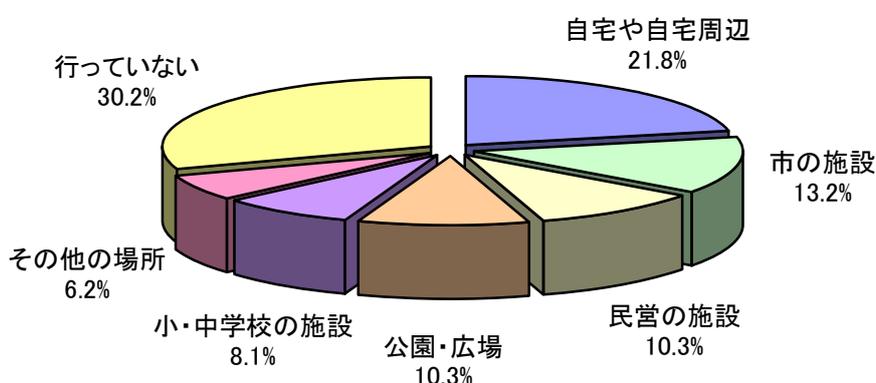


8. 甲賀市のスポーツ施設について

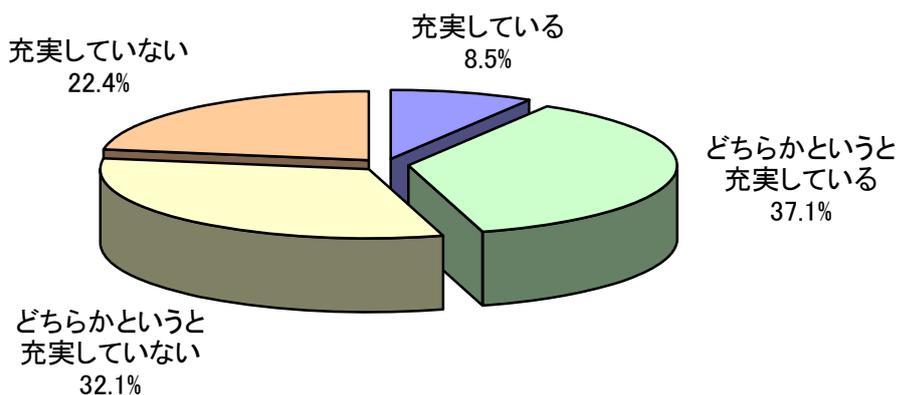
市民の運動・スポーツをする場所として、最も意見が多かったのが「自宅や自宅周辺（21.8%）」でした。次いで、「市の施設（13.2%）」、「民営の施設（10.3%）」、「公園・広場（10.3%）」が利用されています。

また、市内の運動・スポーツ施設に対しては、半数以上の 55.5%が「充実していない」、または「どちらかという充実していない」と考えているようで、「充実している」と思っているのは市民の 8.5%でした。

運動・スポーツを行っている主な場所



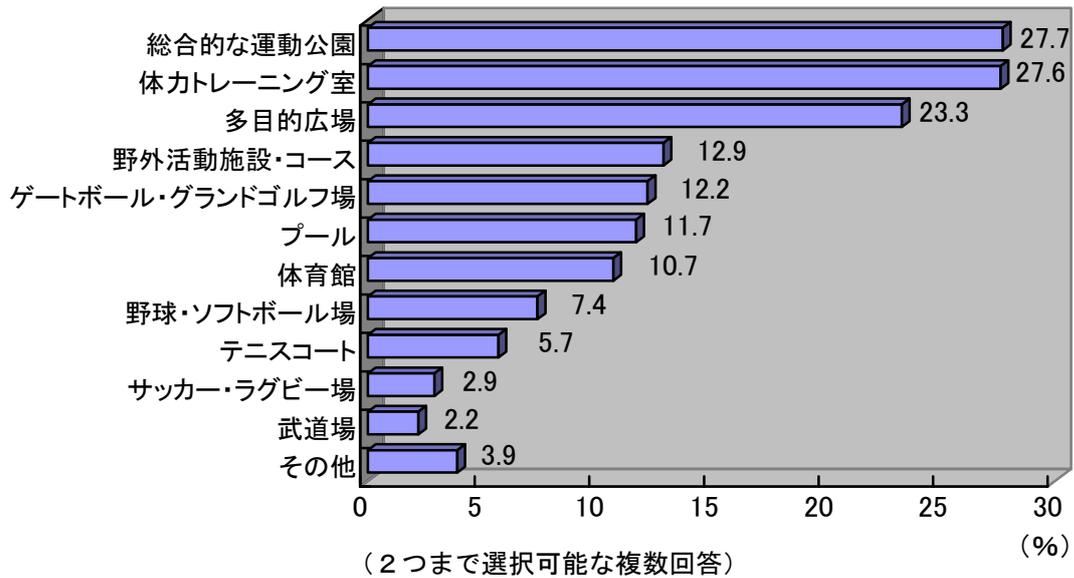
市内の運動・スポーツ施設に対する意識



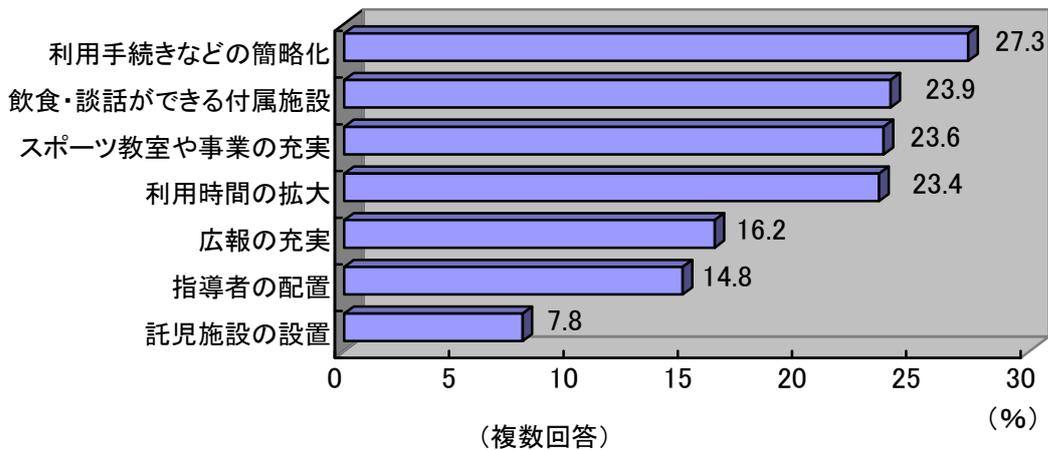
市民が今後運動・スポーツを行う際に必要だと思う施設として、個々の種目に関連した施設よりも、「総合的な運動公園」、「体カトレーニング室」、「多目的広場」などの複合的施設の設置が望まれています。

また、現在の公共スポーツ施設に対しては、「利用手続き、料金支払方法などの簡略化（27.3%）」が最も要望が高く、次いで「飲食・談話などができる付属施設の充実（23.9%）」、「スポーツ教室や事業の充実（23.6%）」、「利用時間の拡大（23.4%）」が望まれています。

市民が必要とする公共スポーツ施設



市内の公共スポーツ施設に対する要望

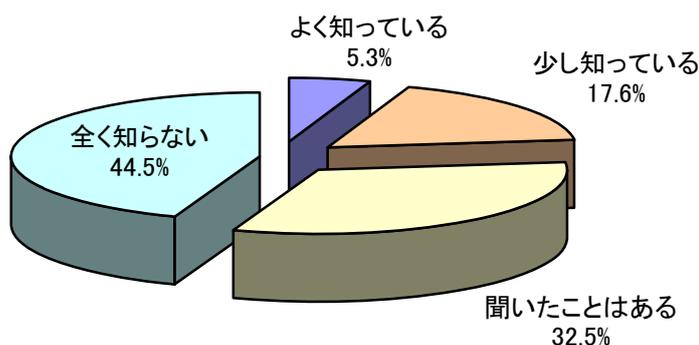


9. 総合型地域スポーツクラブについて

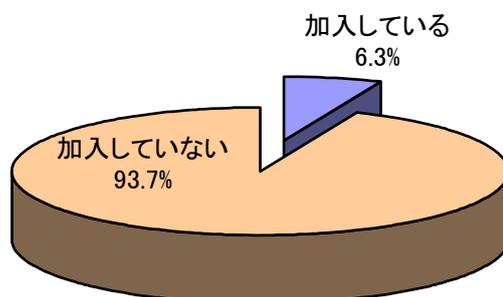
現在、文部科学省は、生涯スポーツ社会の実現に向けて、地域の身近なスポーツ施設を利用して世代やスポーツの目的・志向の枠を超え、みんながスポーツに親しむことのできる「総合型地域スポーツクラブ」をそれぞれの市町村や地域に創設することを目指しています。このクラブの特徴は、「多種目」「多世代」「多志向」で、地域住民が主体的に運営することです。

現在甲賀市内には8つのクラブがありますが、まずはこのようなクラブの認知度を確認しました。その結果、「内容などをよく知っている」と「内容などを少し知っている」を合わせて、23.0%の市民が総合型地域スポーツクラブのことを知っていました。「内容は知らないが聞いたことはある」市民が32.5%いましたが、全く知らない市民も44.5%いました。また、加入率も6.3%に留まっており、各クラブのPR活動などがまだまだ不十分であることがわかりました。

総合型地域スポーツクラブの認知



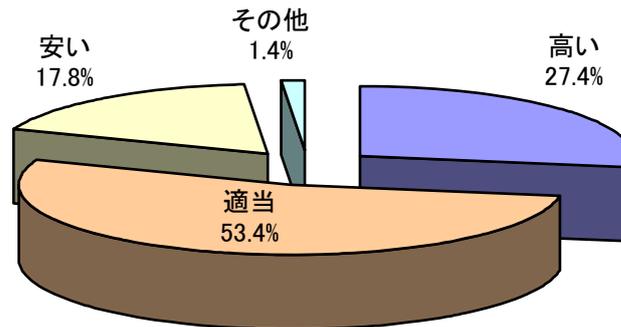
総合型地域スポーツクラブの加入状況



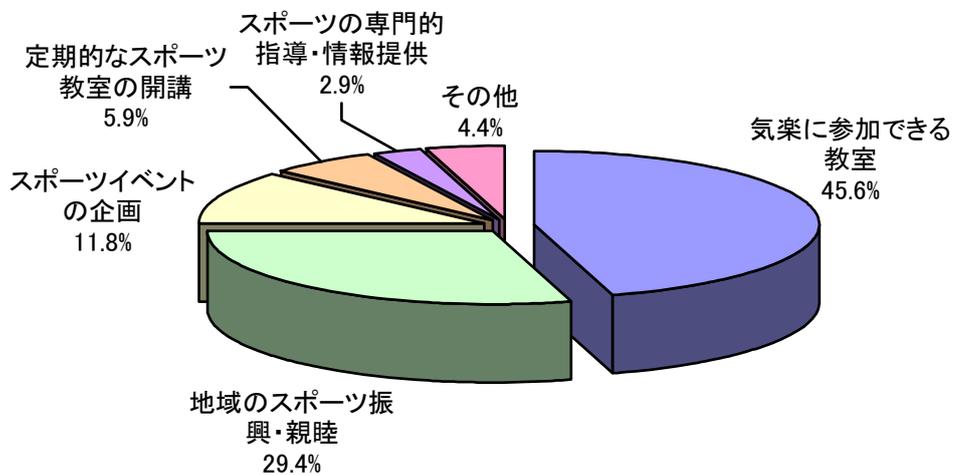
総合型地域スポーツクラブの会員として現在加入していると回答した 79 名を対象に、クラブ会費およびクラブに対する要望についての質問を行いました。その結果、半数以上のクラブ会員が適当な価格であると考えていることがわかりました。

また、クラブに最も望むこととしては、「気楽に参加できる教室」が最も多く、45.6%を占めていました。総合型地域スポーツクラブでは、既存のスポーツ団体や組織と異なる雰囲気、気楽にスポーツできる環境が求められていることが確認されました。

現在加入しているクラブの会費について



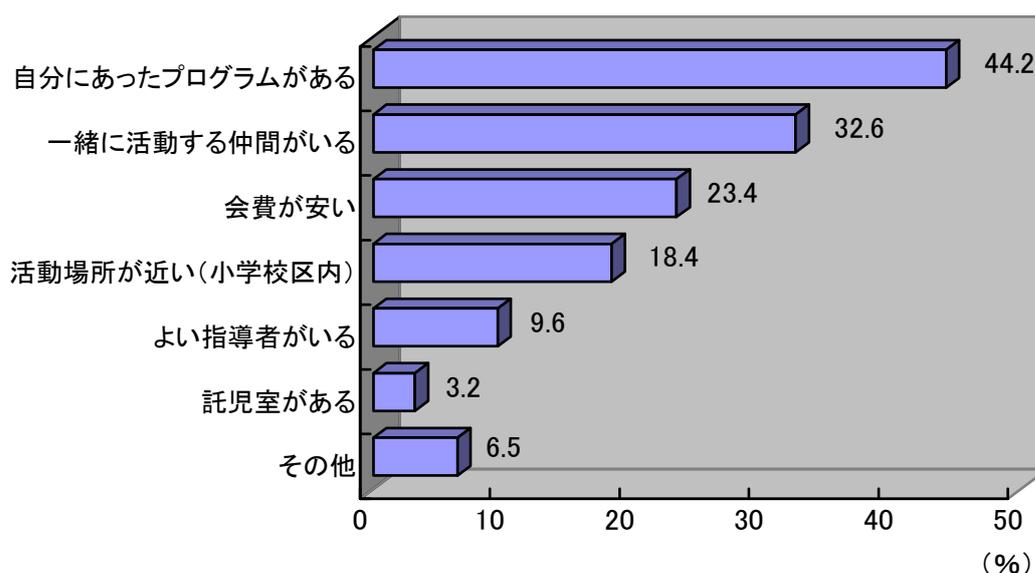
現在加入している総合型クラブに最も望むこと



現在、総合型地域スポーツクラブに加入していないと回答した人に、クラブ会員になるために求める条件を質問した結果、「自分にあったプログラムがある」ことが最も多く挙げられ、回答者の44.2%を占めていました。次いで、「一緒に活動する仲間がいる」(32.6%)が加入条件として選択されました。

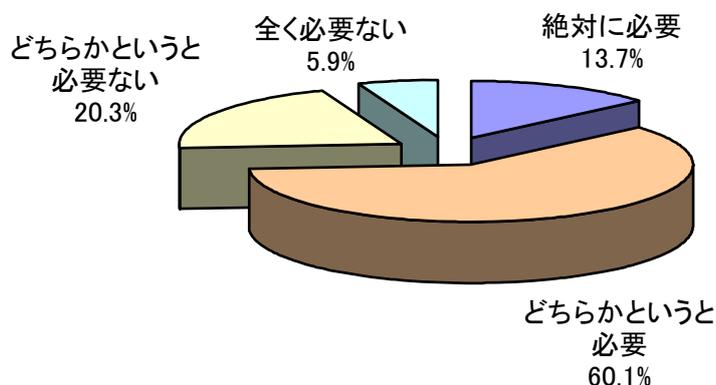
また、身近な場所にこのようなクラブが必要であると考えている市民の割合は、「絶対に必要である」と「どちらかという必要である」を合わせて73.8%と、非常に高いことが明らかになりました。

総合型地域スポーツクラブに加入するための条件



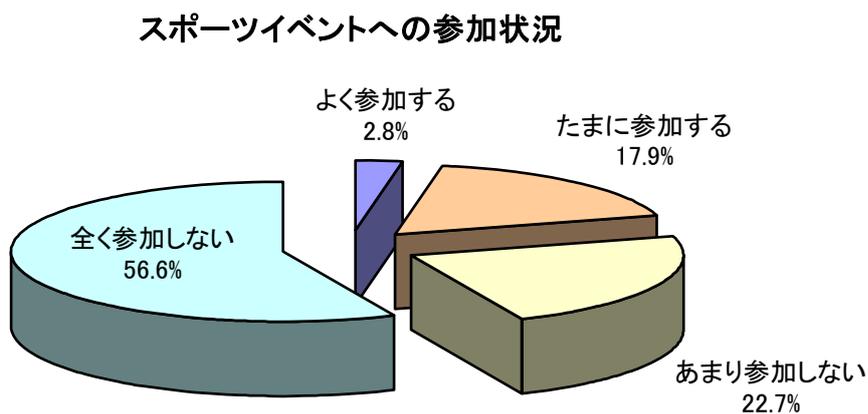
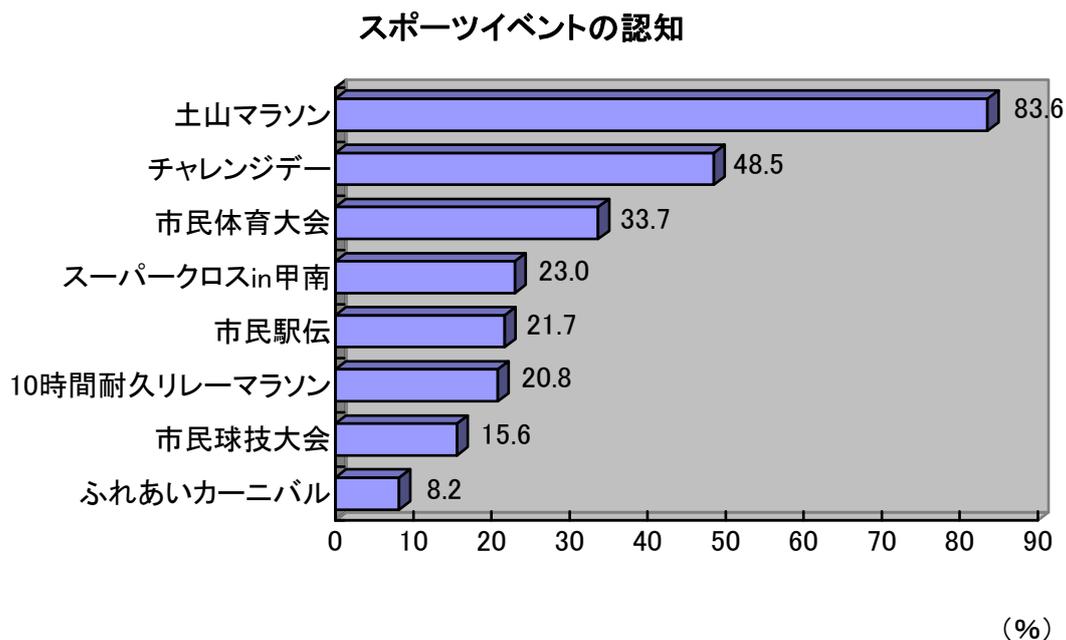
(総合型地域スポーツクラブに加入していない 1, 171 名による複数回)

総合型地域スポーツクラブの必要性



10. 甲賀市のスポーツイベントについて

甲賀市では、さまざまなスポーツイベントが行われているが、市民の間でのそれぞれの認知度および参加率が低いことがわかりました。「土山マラソン」だけは、83.6%と認知度が突出して高く、次いで「チャレンジデー」(48.5%)、「市民体育大会」(33.7%)という順でした。スポーツイベントへ参加している市民の割合は、「よく参加する」と「たまに参加する」を合わせて、全体の20.6%でした。



11. 児童・生徒の体力、運動能力調査結果

文部科学省の「平成18年度体力・運動能力調査結果」によると、児童・生徒の走・跳・投の基本的運動能力ならびに握力における年次推移の傾向が、昭和60年頃をピークにほとんどの年齢段階で引き続き低下傾向にありましたが、平成11年から緩やかに上昇傾向にあると報告されています。

また、運動習慣のある児童・生徒と、ない児童・生徒の体力比較では、男女ともに運動部・スポーツクラブに所属している児童・生徒の方が基礎体力が高く、その差は9歳くらいから顕著になり、年齢が上がるにつれて広がっていく傾向となっています。

(1) 平成19年度 小中学校新体力テスト集計結果

小学校

平成19年11月1日現在

種 目		握 力	上体起 こし	長座体 前屈	反復横 跳び	20 mシャ トルン	50 m 走	立ち幅 跳び	ソフトボ ール投げ
単 位		kg	回	cm	回	回	秒	cm	m
1年 男子	県平均	10.0	11.2	25.7	27.1	15.6	11.4	118.2	10.2
	市平均	11.7	11.6	26.0	29.5	19.6	11.0	122.5	11.4
1年 女子	県平均	9.4	10.8	27.8	25.7	12.8	11.8	108.3	6.0
	市平均	10.9	10.8	30.7	25.6	12.7	11.6	105.6	6.2
2年 男子	県平均	11.9	13.8	27.8	29.6	23.8	10.7	128.9	14.3
	市平均	12.5	11.4	28.2	39.7	21.6	11.0	126.1	11.9
2年 女子	県平均	10.8	12.3	29.8	28.1	17.1	11.2	117.2	7.8
	市平均	11.9	13.0	30.7	38.9	20.1	11.2	124.6	8.2
3年 男子	県平均	13.8	15.5	29.4	34.5	30.9	10.2	140.9	18.8
	市平均	15.2	16.0	26.7	34.7	32.5	10.2	142.8	20.3
3年 女子	県平均	13.1	14.1	32.1	32.8	23.9	10.5	131.9	10.6
	市平均	14.4	12.2	31.5	30.3	21.4	10.8	128.7	10.5
4年 男子	県平均	15.6	17.5	31.2	38.5	39.9	9.8	149.0	22.5
	市平均	16.2	16.8	33.1	37.9	49.7	9.6	153.2	23.6
4年 女子	県平均	14.7	16.0	34.2	36.1	29.5	10.1	138.2	13.0
	市平均	15.1	15.6	36.1	35.5	34.4	10.1	138.5	13.6
5年 男子	県平均	18.0	19.5	33.3	40.3	46.7	9.4	155.9	26.2
	市平均	18.4	19.8	33.1	43.2	52.6	9.4	155.8	26.7
5年 女子	県平均	17.4	17.2	36.9	36.9	33.9	9.7	146.6	15.0
	市平均	17.6	17.2	36.1	38.5	37.6	10.0	147.3	15.6
6年 男子	県平均	21.3	21.7	35.9	44.6	57.8	9.0	167.7	30.4
	市平均	20.9	21.8	34.2	45.6	64.9	9.1	164.8	29.9
6年 女子	県平均	20.2	18.8	39.4	40.9	42.2	9.4	155.3	17.3
	市平均	20.5	19.0	37.5	41.4	47.0	9.4	159.6	18.0

中学校

種 目		握 力	上体起 こし	長座体 前屈	反復横 跳び	20 mシャ トルン	50 m 走	立ち幅 跳び	ソフトボ ール投げ	持久走
単 位		kg	回	cm	回	回	秒	cm	m	秒
1年 男子	県平均	26.25	24.67	41.86	49.17	76.91	8.43	186.45	19.17	409.81
	市平均	25.71	24.23	42.71	49.22	77.42	8.43	179.72	18.67	412.20
1年 女子	県平均	22.55	21.05	43.28	44.14	55.09	9.08	165.05	12.58	293.68
	市平均	22.01	20.88	42.33	43.78	57.09	9.05	161.31	11.84	294.17
2年 男子	県平均	31.75	27.41	46.11	52.09	86.27	7.94	201.07	22.08	391.33
	市平均	31.22	27.47	47.17	51.38	87.04	8.06	193.59	20.68	398.05
2年 女子	県平均	24.37	22.66	45.67	45.70	59.27	8.93	167.07	13.47	287.84
	市平均	24.08	22.64	44.51	44.74	60.92	9.03	162.62	13.10	290.57
3年 男子	県平均	36.34	29.25	49.68	54.41	86.00	7.66	213.50	24.24	393.73
	市平均	36.08	28.94	49.44	54.30	91.37	7.68	209.71	23.14	389.51
3年 女子	県平均	25.42	23.41	48.10	46.10	53.49	8.95	168.95	14.07	300.46
	市平均	25.69	24.28	47.03	46.20	56.97	8.93	165.17	13.61	298.27

(2) 中学校運動部・文化部活動調査（加入者数および加入率）

入部者

平成19年5月1日現在

	在籍数			運動部員数					
	男子	女子	計	男子	加入率	女子	加入率	男女計	加入率
甲賀市	1,485	1,470	2,955	1,270	85.52	907	61.70	2,177	73.67
滋賀県	20,734	19,803	40,537	17,372	83.79	12,305	62.14	29,677	73.21
	在籍数			文化部員数					
	男子	女子	計	男子	加入率	女子	加入率	男女計	加入率
甲賀市	1,485	1,470	2,955	58	3.91	434	29.52	492	16.65
滋賀県	20,734	19,803	40,537	1,031	4.97	5,694	28.75	6,725	16.59

非入部者数

平成19年5月1日現在

	非入部者数					
	男子	加入率	女子	加入率	男女計	加入率
甲賀市	157	10.57	129	8.78	286	9.68
滋賀県	2,331	11.24	1,804	9.11	4,135	10.20

運動部種目別の加入者数

男子

平成19年5月1日現在

甲賀市	陸上	競泳	野球	バレー ボール	バスケット ボール	ソフトテ ニス	卓球	柔道	剣道	サッ カー	計
計	197	33	224	20	143	281	95	17	27	233	1,270

女子

甲賀市	陸上	競泳	ソフトボ ール	バレー ボール	バスケット ボール	ソフトテ ニス	卓球	柔道	剣道	サッ カー	バドミ ントン	計
計	138	22	125	86	120	284	82	5	15	15	907	907

(3) 新体力テストおよび運動部活動調査結果から

① 小学校種目別観点

- 握力については、各学年とも県平均を上回っています。
- 長座体前屈（柔軟性）については、小学校下学年が優れていますが、学年が上がるにつれて、劣ってくる傾向が見られます。
- 20mシャトルランについては、中高学年において優れています。
- 50m走においては、1年生などを除いて、県の平均値に至っていません。
- 立ち幅跳びについては、高学年または女子に於いて、県の平均値に至っていません。
- ソフトボール投げは、多くの学年において、県の平均値を上回っています。

② 中学校種目別観点

- 20mシャトルランについてはすべての学年において、また、長座体前屈で1・2年男子等で県の平均を上回っていますが、他の種目についてはほとんど県平均に至っていません。
- 3年生女子については、各種目において県平均を上回っています。

③ 運動部活動の加入状況

- 男女とも運動部活動の加入率は、県平均に近い状況であり、男子は約86%、女子は約62%です。
- 種目については、男子ではソフトテニス、サッカー、野球、陸上競技などに集中しており、女子はソフトテニスに集中し、陸上競技、ソフトボール、バスケットボールがこれに続いています。

④ 傾向と今後の取り組みについて

○ 小学校における、握力やソフトボール投げなど多くの種目において県平均を上回っていますが、中学校においてはその種目のほとんどが県平均より劣っている現状です。この中学校の現状を考えると、体育の授業において、1年からの選択制の導入により、運動種目が限られていることにその一因が考えられます。また、日常生活においても体を動かす遊びの減少や運動部活動の入部の有無などにより、個人によりその機会に大きな差が生じているため、小学校で培った力がうまく伸びていないことが調査の結果として数値に表れています。

○ 平成23年度から実施される「新学習指導要領」の学校体育については、小学校から高等学校までにおいて、次のような4年間毎の「3ステージの原則」が示されています。

※ 新学習指導要領の「3ステージの原則」

A：小1～小4 基礎的な動きや遊び方を身につける

B：小5～中2 多様な運動種目を共通に学び自分に適した種目を発見する

C：中3～高3 自分に適した種目を選択し深く学習する

この「3ステージの原則」で、これまでの、中学校1・2年の選択制を止して、小学校の5・6年～中学校の1・2年の間には、学校体育としてのすべての運動種目を学習できるようにしたものであり、中学校3年生以降には、自分の興味や力に応じた種目を選択して運動能力を深めていくこととなります。

○ 運動部活動においても、小学校のスポーツ少年団から単一の種目に固執することなく、この時期の子どもたちにより多くの運動種目を経験できる機会と場の提供も必要です。

○ 小学校から体育科の授業において、つきたい力を明確にして、運動量を確保しながら楽しい中に確かな学びと体力がついていく取り組みを進めながら、日常生活においても総合型地域スポーツクラブ等様々な機会を利用して、小学校のみならず中高生においても体を動かす機会を確保し、広げていくことが必要です。

Ⅲ. 甲賀市スポーツ振興基本計画

1. 基本方針

スポーツを通して健康で心豊かな生活を送ることが
できる活気あふれるまちづくり

市民の誰もが、年齢、性別、体力や運動能力、目的に合わせて、スポーツに関わることができる環境を整え、全ての市民が心身の健康を維持、増進し、心豊かな生活を送ることができるようになるために、スポーツを通して活気あふれるまちづくりを進めます。

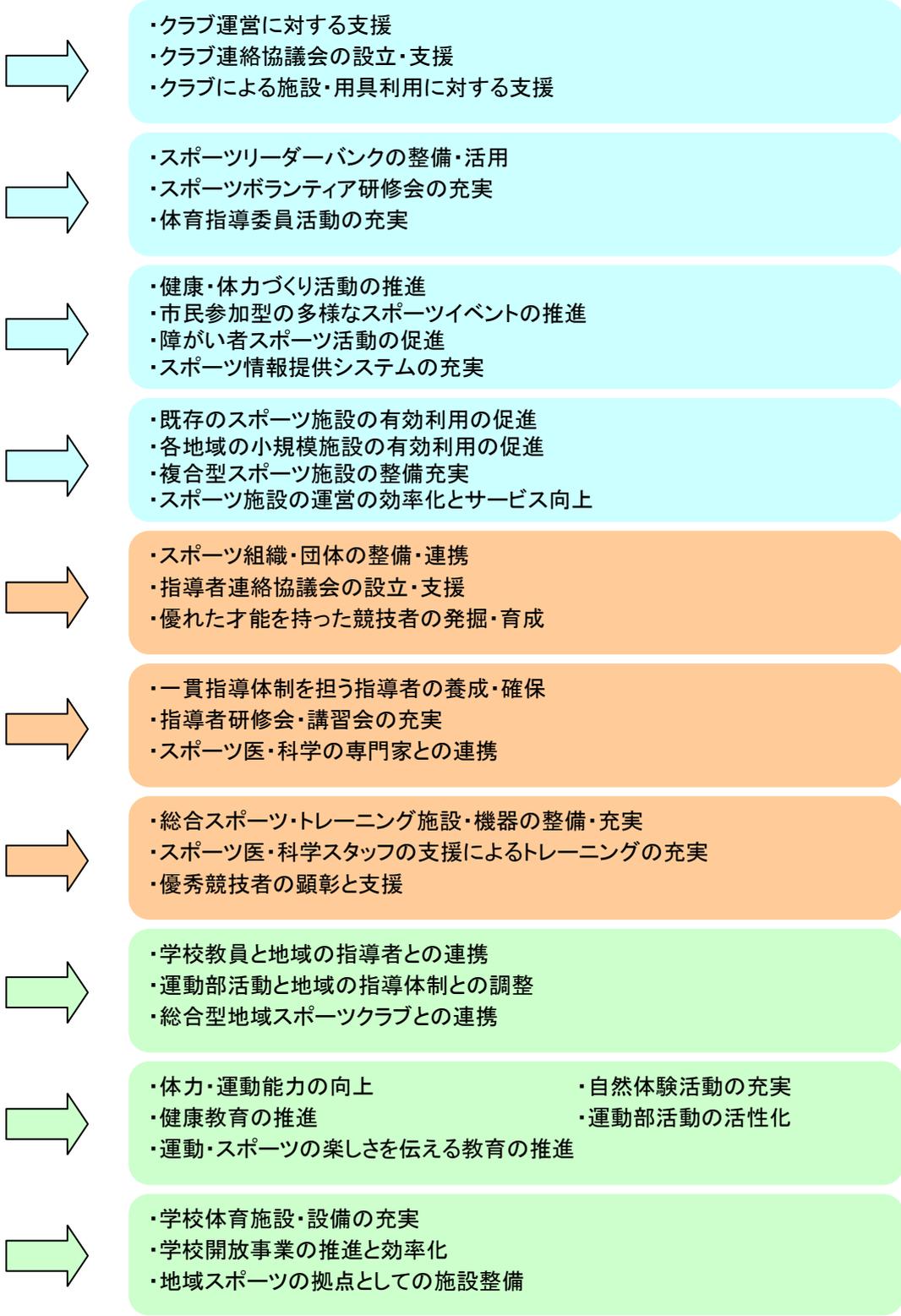
2. 基本目標

みんなのスポーツ環境の整備充実
競技力の総合的な向上
学校体育・スポーツの充実

本計画の基本方針を達成するために、「みんなのスポーツ環境の整備充実」、「競技力の総合的な向上」、そして「学校体育・スポーツの充実」の3つを基本目標として、それぞれの基本的小および具体的施策の取り組みを推進します。

甲賀市スポーツ振興基本計画の概念図





IV. 各基本目標に基づく施策

1. みんなのスポーツ環境の整備充実

市民の誰もが、子どもから高齢者まで、初心者からトップレベルまで、また運動やスポーツを行う目的に関係なく、スポーツに関わりやすい環境を整備・充実することを目指します。「甲賀市におけるスポーツに関する意識調査（平成 18 年 11 月実施）」の結果からわかったように、市民のスポーツ実施率（週に 1 日以上）は 34.7%に留まっており、年代別では、20%台、あるいは 20%以下という年齢層もありました。

同調査からは、運動不足であると感じている市民が多いことも明らかになっており、健康の保持・増進や体力づくりのためにも、スポーツをする機会が必要です。さらに、58%の市民が「週に 1 日以上はスポーツを行いたい」、82.2%が「月に 1 日以上はスポーツを行いたい」と希望しているように、日常的なスポーツ実施のための環境の整備・充実が早急に求められます。

1 点目の「みんなのスポーツ環境の整備充実」の基本目標のもとに、「総合型地域スポーツクラブの育成・支援」、「スポーツボランティアの育成・確保」、「スポーツによる健康づくりと交流の拡充」、および「スポーツ施設の整備・有効活用」の 4 つの基本的施策を設定し、それぞれについての具体的施策を次のように定め推進するものとします。

（1）総合型地域スポーツクラブの育成・支援

平成 18 年度末現在で、甲賀市には 10 の総合型地域スポーツクラブが設立され、活動しています。今後も市民の身近なスポーツの場を整えるために、それぞれの地域の状況に合わせたクラブの設立・育成を図ります。

また、現在活動中の総合型地域スポーツクラブに対しても、各クラブの活動がより活発になるように、クラブ運営の支援やクラブ連絡協議会の設立・支援に努めます。

具体的施策

① クラブ運営に対する支援

新たな総合型地域スポーツクラブの育成と同時に、既存のクラブがより活発な活動を展開できるように、クラブ運営の自主自立化に向けた取り組みに対しての支援を積極的に行います。クラブ運営に関わる助言、広報等における支援を行い、各クラブの会員数の増加、および安定したクラブ経営のサポートをします。

② クラブ連絡協議会の支援

各クラブのスポーツ活動をより活発にするために、各クラブが情報やスポーツ指導者などの人材を共有できるシステムを整えるとともに、協議会をとおしたクラブ間交流の促進を支援します。

③ クラブによる施設・用具利用に対する支援

市のスポーツ振興の担い手として期待される総合型地域スポーツクラブの活動に必要な施設や用具の利用についての制度を整えます。

総合型地域スポーツクラブとは

国のスポーツ振興基本計画に含まれる生涯スポーツ社会の実現に向けて、人々の身近なスポーツ環境を整備するために、全国の市町村や小・中学校区単位で設立・育成が行われている地域のスポーツクラブです。

このクラブの特徴は次のとおりです。

1. 複数の種目が用意されています。
2. 子どもから高齢者まで、初心者からトップレベルの競技者まで、地域の誰もが年齢・関心、技術・技能レベルなどに応じていつでも活動ができます。
3. 拠点となる施設およびクラブハウスがあります。
4. 質の高い指導者の下、個々のニーズに応じた指導が行われます。
5. 地域住民が主体的に運営するものです。

(2) スポーツボランティアの育成・確保

市民の身近なスポーツ環境を整えるうえで、スポーツリーダーやスポーツボランティアの育成、および確保は欠かせません。市のスポーツイベントやスポーツ教室、総合型地域スポーツクラブにおける指導者や運営スタッフなど、市民のスポーツ活動を支えることができる人材の育成・確保に努めます。

具体的施策

① スポーツリーダーバンクの整備・活用

市内のスポーツ活動を支えることができる人材の有効活用を目指して、スポーツや健康に関わる有資格者やスポーツ指導者を含めた生涯学習支援スタッフネットワーク（教育人材バンク）と連携しながら情報公開し、より多くの市民がバンクを活用できるようにします。

② スポーツボランティア研修会の充実

スポーツボランティアに対するニーズに対応するため、市民が安心してボランティア活動に参加できるように、スポーツボランティア研修会を開催し、スポーツを支える人材の育成と資質の向上を図ります。

③ 体育指導委員活動の充実

これまでも各地域のスポーツ振興に関わってきた体育指導委員は、住民と行政とのパイプ役としては欠かせない人材であり、生涯スポーツの普及に努める

とともに、更に住民ニーズを把握して地域に密着した活動の展開を推進します。

(3) スポーツによる健康づくりと交流の拡充

「甲賀市におけるスポーツに関する意識調査（平成18年11月実施）」の結果から、市民のスポーツを行う主な理由は、「健康・体力づくり」や「人との交流」であることの割合が多くを占めています。

これまでは、スポーツ参加の機会が十分に確保されてきたとは言えない障がい者や高齢者も含めて、だれもが気軽にスポーツをとおして健康づくりや人との交流ができるような幅広い事業の充実に努めます。また、スポーツイベントや教室、そしてスポーツ施設の利用に関する情報などが多くの市民に効率よく伝わるように、スポーツ情報提供システムの構築を図ります。

具体的施策

① 健康・体力づくり活動の推進

健康こうか21計画（※）においても、家庭や地域での運動への取り組みが目標に掲げられているように、市民が総合型地域スポーツクラブなどの身近な場所でスポーツをとおして健康づくり、体力づくりができるような事業の充実に努めます。

※ 健康こうか21計画：市民が健康で生きがいをもって生活ができるように定めた計画

② 市民参加型の多様なスポーツイベントの推進

これまでに甲賀市で行われてきたスポーツイベントやスポーツ教室などのスポーツ事業の内容や実施方法を検討し、より多くの市民が参加し、広域交流することができるスポーツ事業を体育協会をはじめ関係団体等と連携し、企画、展開を更に推進して幅広いスポーツの機会の充実に努めます。

③ 障がい者スポーツ活動の促進

障がいのある人々がスポーツに参加できる機会の増加を図ります。さらに、障がいのある人々のスポーツに対するニーズを把握し、スポーツ環境の整備に努めます。

④ スポーツ情報提供システムの充実

スポーツイベント、教室、施設、および総合型地域スポーツクラブなどに関する情報を、市の広報紙やホームページを有効活用して提供します。また、スポーツ施設の利用状況の確認や予約ができるように、だれもが気軽に利用できる情報ネットワークの整備を推進します。

(4) スポーツ施設の整備・有効活用

「甲賀市におけるスポーツに関する意識調査（平成18年11月実施）」の結果から、公共のスポーツ施設の評価は決して高くないことがわかりました。既存のスポーツ施設を有効に利用するとともに、市民のニーズに応える複合型のスポーツ施設の整備、充実を図ります。また、スポーツ施設の利用に対する市民のニーズに合わせた、幅広いサービスの向上を目指します。

具体的施策

① 既存の大型スポーツ施設の有効利用の促進

市内の大型スポーツ施設が日常的なスポーツ活動の場として、より多くの市民に有効利用され、各施設の持つ機能が最大限に活用されるよう、効率よい施設運営に取り組みます。

② 各地域の小規模施設の有効利用の促進

スポーツをより市民に身近に定着させるために、各地域の小規模スポーツ施設や、地域の公民館、集会所などの施設も、スポーツ振興と地域活性化のために有効に活用します。

③ 複合型スポーツ施設の整備充実

全国規模の競技大会等の開催が可能な体育館をはじめ、運動公園や広場、およびトレーニングルームなどを併設したスポーツ施設の整備を促進します。

④ スポーツ施設の運営の効率化とサービス向上

スポーツ施設の利用手続きの簡略化のシステムを構築するとともに、指定管理者制度を活用し、より質の高いサービスの提供に努めます。

2. 競技力の総合的な向上

甲賀市においては、競技力の総合的な向上を基本目標の1つとして、特にジュニア期からの一貫した指導体制を整え、競技者の育成・支援の拡充に取り組むことが必要です。また、市民の中からトップアスリートが輩出され、多くの市民に夢と誇りを与えることは、活気あるまちづくりの一役となります。

2点目の「競技力の総合的な向上」の基本目標のもとに、「一貫指導体制の構築」、「スポーツ指導者の資質向上」、および「競技者に対する支援体制の充実」、の3つの基本的施策を設定し、それぞれについての具体的施策を次のように推進するものとします。

(1) 一貫指導体制の構築

優れた競技能力を持つジュニア競技者を発掘、育成し、その競技力を効果的に向上させるため、甲賀市で一貫した指導理念および指導体制を構築します。

そのためには、スポーツ少年団や体育協会加盟団体などのスポーツ組織・団体、学校、そして総合型地域スポーツクラブなどが連携し、それぞれの指導者、関係者が一体となって、協働することが必要であり、そのような指導体制の確立に努めます。

具体的施策

① スポーツ組織・団体の整備・連携

市内のスポーツ組織・団体、学校、および総合型地域スポーツクラブなどが連携し、それぞれがスポーツ指導に関する理念を共有し、長期的展望に立った一貫した競技力向上システムを構築します。

② 指導者連絡協議会の設立・支援

スポーツ組織・団体、学校、および総合型地域スポーツクラブなどで活動するスポーツ指導者が、ジュニア競技者の一貫指導に関する知識、情報を共有し、協働により指導体制が確立できるように、スポーツ指導者連絡協議会を設立し、その活動を支援します。

③ 優れた才能を持った競技者の発掘・育成

ジュニア競技者の能力を科学的に分析し、各種目に対する適性を把握し、より効果的な競技者育成に取り組みます。育成においては、子どもの発育発達のプロセスを十分に考慮します。

(2) スポーツ指導者の資質向上

トップレベルを目指す競技者を育成するためには、スポーツのあらゆる領域において質の高い指導者が必要になります。スポーツ指導者を対象にした研修会等を実施し、また、スポーツ医・科学の専門家との連携体制も整え、甲賀市のスポーツ指導者の資質向上に努めます。

具体的施策

① 一貫指導体制を担う指導者の養成・確保

ジュニア期からトップレベルのスポーツ競技力向上を組織的に一貫して支援するために、各世代のスポーツ指導に応じた人材の養成、および確保に取り組みます。

② 指導者研修会・講習会の充実

スポーツ指導者が、常に最新のスポーツ指導に関する知識や技術を持つことができるように、県・その他の機関と連携し、スポーツ指導者研修会や講習会を充実させます。

③ スポーツ医・科学の専門家との連携

スポーツの競技力向上には欠かすことができないスポーツ医・科学に関する情報をスポーツ指導者が活用できるように、スポーツ医・科学の専門家との連

携体制を整え、競技者を支援します。

(3) 競技者に対する支援体制の充実

トップレベルを目指す競技者が、質の高いトレーニングを行い、効果的に競技力を高めるためには、指導面だけではなく、さまざまな方面からの支援が必要です。

そのために、トレーニング施設・機器の整備充実、スポーツ医・科学スタッフの支援の充実、および子どもたちがトップアスリートから直接学ぶ機会を提供するなどして、甲賀市の競技者に対する支援体制の充実に努めます。

具体的施策

① 総合スポーツ・トレーニング施設・機器の整備・充実

競技者が質の高いトレーニングを行い、競技力を効果的に向上させることができるように、総合的なスポーツ施設、トレーニング機器の整備を促進します。

② スポーツ医・科学スタッフの支援によるトレーニングの充実

競技者のトレーニングの効果を高めるために、スポーツ医・科学に関する知識と経験が豊富なスタッフの支援が得られるシステムを構築します。

③ 優秀競技者の顕彰と支援

競技者の励みと誇りになり、また、トップレベルを目指す競技者の意欲を喚起するために、市を代表する優秀な競技者・指導者の功績をたたえる顕彰制度を整えます。

3. 学校体育・スポーツの充実

平成 18 年（2006 年）に国のスポーツ振興基本計画が見直され、「スポーツの振興を通じた子どもの体力の向上」が 1 つ目の柱に掲げられ、子どもの体力の低下に歯止めをかけ、上昇傾向に転ずることが目指されるようになりました。

甲賀市でも、この点を重視し、家庭、地域、および学校が連携しながら、子どもの学校体育・スポーツ活動を充実させることを基本方針のひとつに位置づける必要があります。

3 点目の「学校体育・スポーツの充実」の基本目標のもとに、「学校と地域の連携」、「学校教育を通じた運動・スポーツ活動の充実」、そして「学校体育施設の整備・有効活用」、の 3 つの基本的施策を設定し、それぞれについての具体的施策を次のように推進するものとします。

(1) 学校と地域の連携

子どもたちがスポーツをする場となっている学校と地域、それぞれが連携、協働できる体制を確立し、子どもたちのスポーツ環境の充実に努めます。

特に、学校単位の運動部と総合型地域スポーツクラブなどの地域のスポーツ団体、および、それぞれの指導者が連携することにより、子どもたちのスポーツ活動の多様化を図ります。

具体的施策

① 学校教員と地域の指導者との連携

スポーツ指導者不足が問題となっている学校と地域社会において、スポーツに関わる生涯学習支援スタッフネットワーク（教育人材バンク）を有効に活用し、地域のスポーツ指導者と連携しながら、子どもたちのスポーツ活動を支援します。

② 運動部活動と地域の指導体制との調整

各学校の運動部活動が地域のスポーツクラブ・スポーツ少年団や競技団体と共通の指導理念を持ち、互いに調整できるシステムの構築を目指します。

③ 総合型地域スポーツクラブとの連携

総合型地域スポーツクラブにおける子どもたちのスポーツ活動を充実させるためには、学校の協力が欠かせません。学校と総合型地域スポーツクラブの協働によるスポーツイベントやスポーツ教室を実施し、児童生徒の積極的なスポーツ参加を促進します。

（２）学校教育をととした運動・スポーツ活動の充実

児童生徒が最も運動・スポーツに触れ合う機会の多い学校教育の場において、体育授業内容の充実、体力・運動能力の向上、そして運動部活動の活性化などに取り組み、児童生徒の運動・スポーツ活動の充実を図ります。

具体的施策

① 体力・運動能力の向上

日常生活において、からだを動かす機会の減少が原因となって進んだ児童生徒の体力・運動能力の低下に歯止めをかけるため、学校における児童生徒のからだを動かす機会をより多く確保します。学校での体育の授業内容を充実させ、児童生徒の体力、運動能力の向上に努めます。

② 健康教育の推進

運動・スポーツをとおして得られる重要な要素である健康について、学校が地域社会や各家庭と連携し、健康指導や食育指導の推進を図ります。

③ 運動・スポーツの楽しさを伝える教育の推進

勝ち負けや記録を競うだけでなく、からだを動かすことの楽しさを子どもたちが味わい、理解できるよう、運動の多様な効果を活用し、子どもたちが生涯にわたって運動・スポーツに関わり続けることができる能力を育成します。

④ 運動部活動の活性化

各学校の運動部活動では、競技力の向上だけを目的とするのではなく、運動

をとおした豊かな人間性や社会性の向上を図ります。生徒の自主的な活動を尊重し、活発な部活動が展開されるように支援します。

⑤ 自然体験活動の充実

自然の中でからだを動かす経験が少ない現代の子どもたちに対して、地域の実情に応じて、自然体験活動ができる機会を増やします。

(3) 学校体育施設の整備・有効活用

甲賀市内の小学校、中学校の体育施設は、市の重要なスポーツ資源です。学校での児童生徒のスポーツ活動をより充実させるために、体育施設の整備・充実を図り、さらに、多くの市民がそれぞれのスポーツ活動のために有効に活用できる体制を整えます。

具体的施策

① 学校体育施設・設備の充実

学校教育に必要な機能を備えている学校体育施設を、地域の人々のスポーツ活動の場としても活用できるよう推進します。

② 学校開放事業の推進と効率化

学校開放事業を各地域において周知し、より多くの市民による学校施設の利用を促進します。さらに利用手続きを簡素化して、利用促進を図ります。

③ 地域スポーツの拠点としての施設整備

学校や地域の実情に応じて、総合型地域スポーツクラブのクラブハウスを設置するなど、地域スポーツの拠点としての施設の整備・充実にも努めます。

V. 計画の推進および進行管理

1. 計画の推進

計画の内容を効果的・効率的に推進するため、次の取り組みにより、計画を効果的・効率的に推進します。

(1) 市民の理解と協力

生涯スポーツ社会の実現を図るため、市民一人ひとりが、自らがスポーツ振興を図る主体として、スポーツや健康づくりに関心や興味を持ち、市民の理解と協力のもとで事業推進を図ります。

(2) 市内スポーツ関係団体との連携

甲賀市体育協会や小学校体育連盟、中学校体育連盟、高等学校体育連盟、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブなど、市内スポーツ関係団体の活動を支援するとともに連携を密にし、市との役割分担を明確にしたスポーツ振興推進体

制の充実に努めます。

(3) 学校・家庭・地域の連携

児童・生徒の体力の向上を図るには、学校だけでなく家庭、地域が、運動部活動、家庭生活、地域活動など幅広い分野で連携をした取り組みを行う必要があります。生涯スポーツにつながる児童・生徒の体力向上の重要性を、子どもたちを見守り、育てていく地域・家庭・学校が正しく認識できる連携体制強化に努めます。

(4) 行政内部の連携

本計画の実現には、健康福祉分野の施策との連携が必要となります。そこで、行政内部の連携を強化し、横断的な情報交換や事業実施の協力をお互いに行います。特に総合型地域スポーツクラブは、児童・生徒の体力向上のみならず、市民の健康づくり、青少年の健全育成、まちづくりによる地域の活性化など、地域経営の重要な資源となります。コミュニティ振興や健康づくりに向け柔軟な姿勢で取り組みます。

2. 進行管理

(1) 計画の評価および見直し

本計画に基づく施策の実施に際しては、その進捗状況をつぶさに把握し、平成25年度に「スポーツ振興基本計画」全体の見直しを図ります。なお、進捗状況については、スポーツ関係団体や学校関係団体などの代表、学識経験者などで構成する「甲賀市スポーツ振興審議会」において、計画の評価および見直しについての審議をいただき、必要な場合には計画の見直しを行っていきます。